

平成16年度東北・北海道漁協専務参事懇談会開催

去る八月十九日、宮城県志津川町において、東北、北海道の漁協の専務、参事等百五十人が出席し、「平成十六年度東北・北海道漁協専務参事懇談会」が開催された。

懇談会開催にあたり、宮城県漁協専務参事会 芳賀長恒会長が主催者を代表し、



事例発表をする十三漁協相坂参事

「激動する漁業環境については、輸入水産物の増大による魚価の低迷等厳しい状況にあります。懇談会において、東北・北海道の各漁協専務参事が意見交換を行うことにより、より研鑽を深め、水産業の振興と漁協経営の発展に努力していただきたい」と挨拶を述べた。

基調講演では「ジャーナリストの目から見た水産物の流通について」と題して、

水産経済新聞社 安成椰子社長から講演を頂いた後、その後、各道県による事例発表が行われた。

青森県からは、十三漁協の相坂泰史参事が、「漁業者の団結力で勝ち取った十三湖の漁場環境保全」と題して、十三湖の隣接地へのごみ焼却施設の建設計画から、白紙撤回までの漁業者らの運動の展開や現在のシジミに対する資源管理型漁業への取り組み等について発表を行った。

事例発表 テーマ

「活力ある漁業の構築を目指して」

①北海道 「漁業経営安定対策等について」

北海道漁協専務参事会

会長 織田 勝二氏

②青森県 「漁業者の団結力で勝ち取った十三湖の漁場環境保全について」

十三 漁 協

参 事 相坂 泰史氏

③岩手県 「活力ある漁業の構築を目指して」

― 岩手・田老町漁協の

取り組みについて―

田老町漁協

参 事 小林 昭栄氏

参 事 相坂 泰史氏

④宮城県 「気仙沼市魚市場における電子入札の導入効果について」

気仙沼漁協

常勤監事 伊藤 高幸氏

共通対策提案事項については、宮城県から「アワビのタグ装着の取り組みについて」、また、北海道から「漁業経営安定対策等について」提案がなされ、大会参加者の総意をもって決議採択された。



万歳三唱する金野会長

懇談会終了後、交流会が開催され、各道県の参加者が親睦を深め合い、閉会時には、青森県漁協専務参事会 金野英幸会長から万歳三唱が行われ、盛会のうちに終了した。